

## 長期モニタリング計画 評価項目の評価シート

評価項目	VII レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。															
評価項目選定理由	知床世界自然遺産地域管理計画に記載されている。															
評価案の作成主体	適正利用・エコツーリズムWG（海域WG、エゾシカ・ヒグマWGと一部調整）															
評価年月	2021年3月															
評価対象期間	2012年～2019年（ただし一部のデータは2011年以前のものも使用）															
総評	<p>評価値 <b>3.3</b> 注視すべき状態</p> <p>良好 要改善</p> <p>&lt;各モニタリング結果の評価分布&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価値</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table>			評価値	割合	5	20%	4	20%	3	0%	2	0%	1	20%	3.33
評価値	割合															
5	20%															
4	20%															
3	0%															
2	0%															
1	20%															
	<p>&lt;注視すべき状態&gt; 適正利用に向けた管理・取組は概ね良好な状態であり、ヒグマ関連以外では利用者等による自然環境への明確な影響は確認されていない。ヒグマとの軋轢やヒグマ捕殺数が増大傾向であり、状況改善が必要。なお、海鳥の生息数等との両立については、現時点で営巣地や個体への接近をあらゆるデータが収集できていないため、検証に向けて改善が必要。</p>															
対応するモニタリング項目とその評価	No.	モニタリング項目	評価基準（概要）	個別評価	数値化											
	15	ヒグマによる人為的活動への被害状況	人身事故を起こさないこと 危険事例の発生を抑えること 農業被害を削減させること		1											
	19	適正利用に向けた管理と取組	エコツーリズム戦略を実現するための管理と取組が行われているか		5											
	20	適正な利用・エコツーリズムの推進	エコツーリズム戦略に基づく適正な利用及びエコツーリズムの推進が行われているか		4											
	(基) タ ング状況)															
	6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査														
	21	利用者数の変化														
24	年次報告書作成による事業実施状況の把握															
25	年次報告書作成等による社会環境の把握															

長期モニタリング計画 評価項目の評価シート（案）

<p>評価の理由等</p>	<p>（個別モニタリング項目の評価結果に係る背景、評価の理由のほか、評価プロセス等、評価結果に係る特記事項を簡潔に記載。）「レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること」</p> <p>「レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること」</p> <p>○No. 15 ヒグマによる人身事故を起こさないこと、人間の問題行動及び漁業活動に関係する危険事例の発生を5年間で計12件以下の水準に抑えること、斜里町の農業被害額及び被害面積を2020年度までに2016年度比で1割削減させること</p> <p>ヒグマによる人身被害、農林水産業被害、地域住民や漁業者による危険事例が発生しており、評価基準に非適合・悪化と評価された。一方で、レクリエーション利用における人身被害は発生しておらず、知床五湖園地では利用調整地区制度を導入した結果ヒグマ出没による閉鎖日数は大幅に減少した。ただし、利用者の問題行動による危険事例は減少していないことから、引き続きヒグマに関する危険周知、適切な距離に関する普及啓発に努める必要がある。</p> <p>○No. 19 「知床エコツーリズム戦略 9. 具体的方策」を実現するための管理と取組が行われていること</p> <p>利用コントロールやルールの設定と指導の件数は増加し、エコツーリズム検討会議を中心に利用機会の確保、管理の強化、モニタリング、利益の還元、情報発信などが関係者により取り組まれており、知床エコツーリズム戦略を実現するための管理と取組が行われていると判断され、評価基準に適合・改善と評価された。</p> <p>○No. 20 「知床エコツーリズム戦略 5. 基本方針（1）（2）」に基づき、適正な利用およびエコツーリズムの推進が行われていること</p> <p>地域の観光や利用に関する団体の大半が知床エコツーリズム戦略の方針を尊重した活動を展開し、自然環境の保全に配慮した観光が実施されているため評価基準に適合、環境の大きな変化は報告されていないため現状維持と評価された。外国人も含めた利用者数の増加、ヒグマとの軋轢、気候変動による影響などが課題として指摘されている。</p> <p>&lt;参考&gt;</p> <p>○No. 6 およそ登録時の営巣数が維持されていること</p> <p>ケイマフリの営巣数は増加したが、ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの営巣数は減少しており、評価基準に非適合・悪化と評価された。ただし、動力船やシーカヤックなどのレクリエーション利用による営巣地や個体への接近をあらゆるデータは収集できておらず、その影響は明らかではないため、今回評価においては参考情報とする。今後、レクリエーション利用と自然環境保全の両立について評価するには、営巣箇所ごとの観光船の利用頻度を算出するなど人為的な影響のデータを収集し、相関関係を検証する必要がある。</p>
<p>遺産地域の管理施策に関する特記事項・課題等</p>	<p>（評価項目の評価結果に密接に関連する管理施策として、特筆すべき事項があれば記載。また、管理施策の現状等を踏まえた今後の遺産管理上の課題について記載）</p> <p>知床エコツーリズム戦略にもとづき、適正利用およびエコツーリズムを実現するための地域からの提案と検討会議での承認による取組が成果をあげている。一方で、承認制度の複雑さや地域外の認知の低さなどから、新たな利用に関する提案数が実態よりも少ない可能性があり、戦略や周知方法について改善を検討すべきである。また、社会状況の変化に応じて、既存の地域ルールや制度との整合が課題となりつつある。</p>
<p>今後の遺産地域の管理の方向性に関する意見</p>	<p>（調査手法等へのコメントではなく、上記課題を踏まえた「遺産地域の管理の方向性」等についての助言等があれば、適宜記載。）</p> <p>管理者、地域関係者、専門家による適正利用エコツーリズム検討会議を中心とした取り組みが特徴的である。レクリエーション利用と海鳥、ヒグマ、高山植物等の自然環境との因果関係には明らかにできないものもあり、関係するワーキングと連携したモニタリングと分析、評価、それにもとづく適正利用に向けた取組の推進が望まれる。</p>